

## Broaden your horizons ～さあ、視野を広げて!～

先日、堺市立総合医療センター薬剤科の大西敦子先生の講演を聞かせてもらいました。大西先生は「救急・災害医療における薬剤師の役割」をテーマに話しており、被災地などで求められる薬剤師の役割の重要性をあらためて感じました。

私もカンボジアの医療支援や東日本大震災の支援を行った際、現場には医薬品がないわけではなく、あっても整理されていなかったり、適切な使い方が分からないなど、「もったいない現象」が災害時には起こりやすいのだと感じたものです。カンボジアの暑い室内で、冷所保存のインスリンが棚の中に置かれているのを見たときには、そのことを痛切に思いました。被災地などでは「今ある薬でどう対応していくのか」ということが大切ですが、まさに薬剤師こそが活躍できる分野ではないでしょうか。

大西先生は「情報を制する者は災害を制する」とも言っています。阪神・淡路大震災が発生した際、医師が112人いる大病院には負傷者が363人しか運ばれなかった一方、医師が7人しかいない病院に1,000人以上が運ばれたというエピソードも紹介し、情報の大切さをあらためて指摘していました。そして、最後に「災害現場では3K（機転・機敏・気配り）が必要」とも教えてもらいました。これは災害現場だけでなく、日々の現場でも必要なことだと思います。

メディセレスクール ファウンダー 児島 恵美子